

2019年10月24日

横浜ゴム、アルプスアルパイン（株）との共同開発により タイヤセンサーの開発を加速

横浜ゴム（株）はアルプスアルパイン（株）との乗用車用タイヤセンサーについて共同開発を行っていることを10月23日から開催されている「第46回東京モーターショー2019」のプレスカンファレンスにて公表しました。

横浜ゴムではタイヤもCASE[※]対応およびIoT化が必須と考え、東京モーターショー2019では様々なCASE[※]対応のための新技術展示を行っています。そのなかのConnected（コネクテッド）において、従来のタイヤ空気圧検知に加えて、摩耗検知、路面検知、それらのデータをデジタルツールで処理・管理していくソリューションビジネスの展開を視野に入れ研究開発を行っています。今後は、タイヤから得られたデータを如何にユーザー等にフィードバックしていくかというシステムやアプリケーションの開発も重要であると考えており、それらが新たなタイヤビジネスの付加価値になっていくと予想されるため、タイヤセンサー開発の加速化が急務と判断し、アルプスアルパイン（株）と共同開発を進めています。

※Connected（コネクテッド）、Autonomous（自動運転）、Shared & Services（カーシェアリングとサービス/シェアリングのみを指す場合もある）、Electric（電気自動車）の頭文字をとった造語

アルプスアルパイン（株）は、1948年に設立され、スマートフォン等の情報通信機器、車載音響機器、情報通信機器を中心に開発、製造、販売している電子部品メーカー。センサー開発のほか、システム設計力やソフトウェア開発力を有しており、当社では新しいタイヤビジネスモデルでのシナジー効果を期待しています。

横浜ゴムは、2004年に当時では国内タイヤメーカー初となる乗用車向けタイヤ空気圧モニタリングシステム「AIR watch（エアウォッチ）」を開発し、2005年から限定発売を開始しました。同商品は、2004年にグッドデザイン賞、2006年には日刊自動車新聞社が主催する「日刊自動車新聞 用品大賞 2006」の機能用品・アクセサリ部門賞を受賞しています。また、厳しいタイヤ管理が求められる運輸・輸送会社向けには「安全な輸送」、「輸送効率の向上」、「省燃費による環境貢献」を実現するトラック・バス用のTPMS（Tire Pressure Monitoring System）として「HiTES（ハイテス）」を2003年から発売しています。「HiTES」から得たタイヤ運用履歴などを当社のタイヤ・マネジメント・システム（TMS）と連動させることで、運行傾向の分析やタイヤ点検時期のお知らせなどユーザーの総合的な車両運行管理のレベル向上と、リトレッドタイヤの推進に活用しています。

HiTES オフィシャルウェブサイト <https://www.y-yokohama.com/product/truckbustire/hites/>
アルプスアルパイン（株） オフィシャルウェブサイト <https://www.alpsalpine.com/j/>

このリリースに関するお問い合わせ先
横浜ゴム（株） 経営企画部 広報室 担当：池田
TEL：03-5400-4531 FAX：03-5400-4570